ZOCALO 2017 12 ▸ 2018 1

ZOCALO＝ソカロはメキシコの都市の広場を意味するスペイン語。埼玉県立近代美術館はアートを通して交流する市民の広場をめざしています。

版画の景色　現代版画センターの軌跡

2018年1月16日（火）～3月25日（日）

多くの人々が手にすることのできる「版画」。このメディアの特性を生かし、版画の普及とコレクターの育成を目指して1974年に誕生したのが「現代版画センター」です。同センターは10年あまりの活動の中で、およそ80人におよぶ美術家と協力して700点を超える作品を次々に世に送り出し、同時代の美術の一角を牽引したことで知られています。

調査を継続するうちに自然と浮かび上がってきたのは、現代版画センターの３つの軸です。１つめは、当事者も使っていた言葉のとおり、「メーカー」、すなわち版画を制作する版元としての活動。約80作家700点以上のエディションが制作されていますが、中には、今や空前絶後の人気を誇る草間彌生や、当時すでにポップ・アートの神話的存在であったアンディ・ウォーホルも含まれています。ウォーホルの時は、NYのスタジオにモチーフとなる写真を大量に運び、その中からウォーホルが菊を選び、《KIKU》の連作が生まれたといいます。２つめは、「オーガナイザー」、すなわち、オークション、展覧会、シンポジウム、上映会など様々なイベントを組織する活動。ここに掲載したのは、まさにその代表的な事例である、大谷の地下空間でのアンディ・ウォーホル展の記録写真です。会場構成は、同センターの活動と深く関わっていた、美術家の関根伸夫が担当しており、当時、大きな話題となりました。そして、３つめは、「パブリッシャー」、すなわち刊行物を編集・発行する活動。名称や判型を変えながら105号まで刊行された同センターのニュースを繙くと、濃密な言説空間が出現します。さらに、関係作家の作品集や展覧会のカタログなども多数刊行されています。例えば、ウォーホル展のカタログには、美術関係者にとどまらず、当時の知識人、タレントなど著名人が多数寄稿しており、さらに、オリジナル版画も収録されています。このように、ウォーホルを例にあげれば、「メーカー」としてオリジナルのエディション作品を生み出し、「オーガナイザー」としてウォーホル展を企て、「パブリッシャー」としてウォーホル展のカタログを刊行する、というように、３つの軸が相乗効果をあげるように連動する出来事として遂行されていることがわかります。ウォーホルはクールだが、現代版画センターは熱かったのです。

現代版画センター企画・ウォーホル全国展「巨大地下空間とウォーホル展」
会期：1983年7月24日～8月20日（オープニングは7月23日）／主催・会場：大谷町屏風岩アート・ポイント
photo: Osamu Murai ©

この展覧会では、この３つの軸に注目して、現代版画センターを、時代の熱気を帯びた多面的な運動体としてとらえてみたいと考えています。そして、その多面的な運動体が帯びていた「熱気」を体感できる展示空間の出現と、その運動体が時代に残した「爪痕」としての作品、出来事、出版物を俯瞰的にとらえうる印刷物(カタログ)の出版を目指しています。ぜひご期待ください。(R.G.+G.U.)

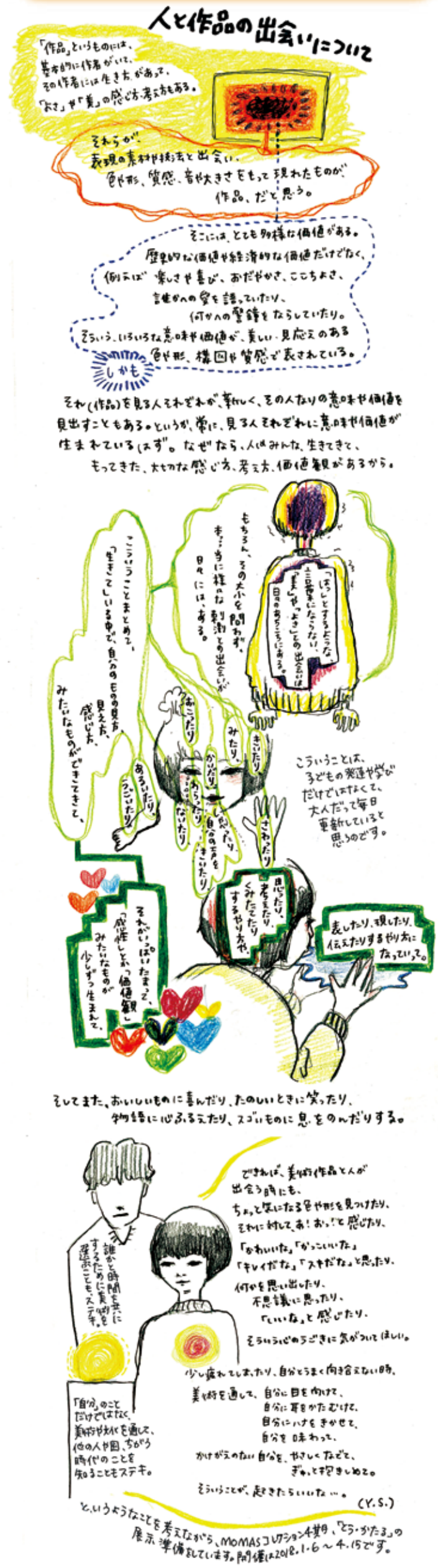
【出品作家　45名】

靉嘔／安藤忠雄／飯田善国／磯崎　新／一原有徳／アンディ・ウォーホル／内間安瑆／瑛九／大沢昌助／岡本信治郎／小田　襄／小野具定／オノサト・トシノブ／柏原えつとむ／加藤清之／加山又造／北川民次／木村光佑／木村　茂／木村利三郎／草間彌生／駒井哲郎／島　州一／菅井　汲／澄川喜一／関根伸夫／高橋雅之／高柳　裕／戸張孤雁／難波田龍起／野田哲也／林　芳史／藤江　民／舟越保武／堀　浩哉／堀内正和／本田眞吾／松本　旻／宮脇愛子／ジョナス・メカス／元永定正／柳澤紀子／山口勝弘／吉田克朗／吉原英雄

現代版画センターの軌跡　1974-1985

1974年2月	全国版画コレクターの会（仮称）準備会結成。
3月15日	機関誌『画譜　創刊準備号』刊行。
3月31日	全国版画コレクターの会(仮称)準備会、第1回東京オークション開催。
5月	正式名称を「現代版画センター」とする。
5月30日	現代版画センター機関誌『画譜』創刊(4号まで刊行)。
6月	エディションNo.1として靉嘔《I Love You》シルクスクリーン(限定11,111部)を制作・発表、頒価1,000円。 全国縦断企画「版画への招待展」を愛媛県松山と、岩手県盛岡からスタート。
1975年2月20日	機関誌『版画センターニュース』創刊(105号まで)。
11月	エディション作品による「島州一・関根伸夫クロスカントリー7,500km展」を函館から宮崎までほぼ同時に全国各地で開催。
1976年9月	初めて会員からエディション制作資金を募り（予約金）菅井汲の新作版画21点を制作、「菅井汲全国展」を開催。
1977年～78年	会員制による共同版元の理念を具体化した企画“現代と声”全国巡回。
1978年7月21日	現代版画センター、北川フラム編『'77現代と声ー版画の現在』刊行。
1979年5月26日	『戦後版画の創世期1945～1956』刊行、同展を愛知県豊田・美術館松欅堂、東京・ミキモト、大阪・梅田近代美術館、長野県坂城・森工房他で開催。
1981年3月1日	現代版画センター直営のギャラリー方寸を渋谷にオープン（オープニング展示「瑛九　その夢の方へ」）。
1982年3月1日	ギャラリー方寸機関誌『Monthly Hohsun』創刊。
4月9日～18日	ギャラリー方寸、第3回美学校シルクスクリーン工房　プリントシンポジウム展開催。
1983年6月7日	『アンディ・ウォーホル展1983～1984　オリジナル入りカタログ』刊行。
1983年～84年	エディションNo.601～603　アンディ・ウォーホル《KIKU 1》《KIKU 2》《KIKIU3》シルクスクリーン（限定各300部）を制作。 版画代表作による「アンディ・ウォーホル全国展」を東京・パルコ、宇都宮・大谷石地下空間、秋田県大曲他で開催。
1983年11月～84年	新作エディションによる「磯崎新全国展」を東京・GAギャラリー、奈良・西田画廊、福井県勝山他で開催。
1984年4月1日	『版画センターニュース』を『版画コミュニケーション誌ed』へリニューアル（101号～105号）。
1985年2月	現代版画センター、倒産。

MOMASコレクション 第４期
とう・かたる－人と美術の出会いの中で



はみだしソカロ035　小さいころ、公園の彫刻で遊びました。大きくなって子供ができ、一緒に公園の彫刻で遊んでいます。とても大好きです（35周年メッセージから）

はみだしソカロ036　とても面白いてん示がしてあったり、役に立つことがかいてあり、見にいくことがよくありました。いすのてん示では母と行ったこともあります（35周年メッセージから）